



酒天之美祿  
さけはてんのびろく

Number 68

# 酒と歌と社会と時代

北原伸一 ● Shinichi Kitahara



いつものように、いつもの店の止まり木で、ボスはグラスを傾けていた。早いピッチで盃数が進んだのか、普段の口数の少なさからは想像もつかない饒舌ぶりである。

「そろそろ歌えよっ！」  
カラオケの指令が発せられた。右手には曲を選定する端末「D A M」が握られている。左手にはグラスが握られたまま、カウンターに置こうともしない。カラになったグラスの中で氷がカランと音を立てた。

「レパートリー増えてないっすよ。それに、今夜はまさえ姉さんがマイク離さないし……」

十八番の「愛と欲望の日々」(サザンオールスターズ、作詞・作曲／桑田圭祐)のメロディが、店内のスピーカーを揺らしている。そう、フジテレビのドラマ「大奥」第一章「のあの曲だ。大ベテランだけあつて、この店では大奥気分を満喫できるらしい。

いつもより、しなやかに、艶やかに……。それに声も通ってる。ただし、目はすでに酒のせいで据わってる。遠く一点を見つめ、熱唱、熱唱、呑んではまた熱唱。次の曲はおそらく「むらさき雨情」(藤あや子、作詞・三浦康照、作曲・山口ひろし)だろう。まだ「大奥」が終わらぬうちにD A Mで入力している。曲番号を暗記しているのだ。また聴かされるのか。

『わあ、耳の中が歌の玉手箱や』(彦磨呂風)。  
(たぶん、まさネエの頭ん中は、超満員の

新宿コマ劇場の舞台だろな。観客はスタンディングオベーションだろな。コマ劇場ってところが泣かせる)

そう考えながら、選曲するフリをする。歌える歌などそんなにありやしない。もう決まってる。

「酒と泪と男と女」(河島英五、作詞・作曲／同)。そうこうしているうちにイントロが流れ出す。歌い疲れたまさネエとバトンタッチ、マイク交替。

「またその曲かっ」とボスの舌打ちが耳障りだが、好きな歌だから仕方がない。

酒場にカラオケは欠かすことのできないアイテムとなったが、それにしても、「酒」を題材にした歌っていったいどのくらいあるのだろうか。酒をイメーजする「酔」という文字や、「ワイン」「ブランデー」などの歌だつてある。

「D A M」を使って調べてみるか。  
……ダ、ダメだ、まさネエが独占していて離さない(泣)。

## 楽曲数330曲

こうなりやプロに調べてもらいましょ。データベースに「酒」ってキーワードを入力すりや、ボンとリストができるでしょ。

というわけでやってきましたカラオケ機器大手の第一興商。対応してくれたのは、関森英雄広報課長。

「すいませくん、タイトルに『酒』ってつく

曲調べて欲しいんですけどお」

「わかりました。そういう依頼は珍しいですが、やってみましょう」

こころよく承諾してくれた。でも出来上がるのに一週間かかると言うので、とりあえず「酒」の文字がタイトルに含まれる曲のリストをお願いした。

3日後、当初より早く仕上がった。うーん、さすがカラオケ機器の50%以上のシェアを誇るDAMを作ってる会社だけのことはある。仕事が速い。

第一興商が配信している曲数は全7万4644曲。そのうちタイトルに「酒」が入っている楽曲数は330曲を数えた。

やはり演歌系がそのほとんどを占める。時代の流れとともに、生活や社会が一変してきたけど、酒にまつわる歌は、いつの世も「日本酒で、縄のれんで、ぐい飲みで、男がいて、女がいて……」なんだろうな。

なんか情景が目につかんてくる。

「男の酒場」(竜鉄也、作詞/古野哲也・作曲/竜鉄也)、「わかれ酒」(三沢あけみ、作詞/吉川静夫・作曲/渡久地政信)なんかはいかにも日本人の心を歌い上げる直球勝負のタイトルで、そうしたイメージを持つ曲は多い。

これだけあると、タイトルだけ並べて人情話ができあがる。

「お酒ください」(日野美歌、作詞・作曲/吉幾三)、「お酒ちょうだい」(原田ヒロシ、作詞/いとう彩・作曲/原田ヒロシ)と言

えば「酒さあーさ」(嶺よう子、作詞/中

谷純平・作曲/保田幸司郎)と「居酒屋マ

ちゃん」(さくらみか、作詞/礼恭司・作曲/吉田武史)が勧められる。「泣き酒ですから」(キム・ランビ、作詞/池田充男・作曲/水森英夫)と心中を伝えると、「お酒はグイット」(夏希ひとみ、作詞/園さちこ・作曲/浜ひろし)と、慰められ、そして

最後に「酒よーあんときやありがとっ」(原田三樹夫、作詞/星野哲郎・作曲/浜圭介)と立ち直る。

330曲の中でタイトルに「酒」の文字の入る持ち歌がある歌手をみると、やはりというべきか、美空ひばり、宮史郎(びんから兄弟含む)が7曲とトップを分け合い、五木ひろし(デュエット曲含む)、中村美律子の6曲と続く。

ちなみに「酒」のつくタイトル曲でのカラオケランキングを見ると、

1位 居酒屋(五木ひろし・木の实ナナ)

2位 酒よ(吉幾三)

3位 おんな酒(上杉香緒里)

4位 酒と泪と男と女(河島英五)

5位 居酒屋「敦賀」(香西かおり)

6位 居酒屋「花いちもんめ」(石川さゆり)

7位 夢追い酒(渥美二郎)

8位 ふたり酒(川中美幸)

9位 悲しい酒(美空ひばり)

10位 船酒場・ふねさかば(山内恵介)だった(2006年3月のランキングより)。

## 辛い仕事を癒すため

カラオケは、日本が世界に誇る文化だが、そもそも日本人は歌うことが好きな民族だ。ほら、日常、なにげなく鼻歌、歌ってませんか、ご機嫌なとき。

「仕事唄」……。酒造りのときに蔵人たちによって歌われた歌がある。その研究で第一人者といわれる、上越教育大学の茂手木潔子教授の解説を参照させていただこう。Web上でそれを見ることが出来る。

〈酒造り唄の歌詞には、もともと作詞されたものがあつたわけではない。いつの間にか歌い継がれてきた歌詞や、気にいられて多くの蔵人が歌ったために同じような歌詞で固定したものが中心である。さらに、厳しい作業工程における唄の役割は、自分自身の気持ちを励ますためや家族と離れて暮らす寂しさを紛らわせるため、また眠気を振り払うためであり、生きるために歌われた唄であつたから、仲間内だけに通じる歌詞や、恋愛をあからさまに歌った歌詞など様々な歌詞が存在し、こういった歌詞の多くは記録されなかった。しかし、その様な記録されない歌詞こそ身体に刻み込まれている歌詞でもあつた。〉

なるほど、酒造りの唄はたんに、リズムを取りながら、仕事に飽きてしまわないようにという単純な理由からではなかった。なんとなくそうだろうな、と頭の中ではわ

# 「酒と歌と社会と時代」の変遷

昭和	社会、酒類業界の主な流れ	「酒」のタイトルヒット曲・歌謡史	★日本レコード大賞(「酒」関連受賞) ☆紅白歌合戦(「酒」の出演歌)
30年以前	メチルアルコール流行で死者続出(昭20)、酒類自由販売(昭22)、どぶろく流行(昭22)	「酒が飲みたい(クレーン、昭6)、「酒は涙かため息か(藤山一郎、昭6)、「夜の酒場にて(徳山健、昭7)、「雨の酒場で(灰田勝彦、昭12)	☆第5回「雨の酒場で」(ディックミネ、昭29)
31	売春防止法成立、「もはや戦後ではない」流行	プレスリブーム	
32	岸内閣成立、南極昭和基地設置、ロカビリーブーム	三輪明宏の「メケ・メケ」が話題に、三波春夫の「チャンキおけさ」ヒット	
33	相撲の栃若時代、東京79完成	ロカビリーブーム「ウェスタン・カーニバル開催、ポール・アンカ来日	
34	皇太子殿下ご成婚、カミナリ族、伊勢湾台風	ザ・ビーナッツデビュー	★日本レコード大賞第一回開催
35	社会党・浅沼委員長刺殺、日米安保条約調印	ニールセダカ来日、日活アクションスター活躍	
36	「わかっちゃいるけどやめられない」流行	「君恋し」が「リバイバルヒット」上を向いて歩こうがNHK番組から人気	☆第12回「姉妹酒場」(こまどり姉妹)
37	堀江謙一ヨット太平洋横断	中尾ミエ、伊東ゆかり、圓まりの新3人娘デビュー、クレージーキャッツ人気	
38	果実酒の自家製造解禁、「吉原ちゃん誘拐事件、ケネディ大統領暗殺	坂本九の「スキヤキソング」アメリカで大ヒット	
39	ビール、洋酒が自由価格になる、東京オリンピック	西郷輝彦デビューで、橋幸夫、舟木一夫と「ご三家」、都はるみデビュー	
40	日韓条約の成立、朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞	ベンチャーズ来日	
41	ビートルズ来日、新三種の神器(カラーテレビ、カー、クーラー)	ビートルズ来日、「悲しい酒」(美空ひばり)	☆第17回「美しい酒」(美空ひばり)
42	吉田元首相死去、戦後初の国葬、ミスカーブ大流行	GSブーム、「帰ってきたヨッパライ(フォーク・クルセダーズ)	
43	3億円強奪事件、川端康成ノーベル文学賞受賞	「伊勢崎町ルース」「思案橋ルース」など地名ブルースが話題に	★特別賞「帰ってきたヨッパライ」(フォーク・クルセダーズ)
44	リキュール、バーボンを輸入自由化、アポロ11号月面着陸	「黒猫のタンゴ」260万枚の大ヒット	
45	ワイン輸入自由化、万博開催、「よど号」乗っ取り事件、三島由紀夫割腹自殺	第1回日本歌謡大賞で藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」受賞、ビートルズ解散	
46	第一次ワインブーム、大久保清連続女性誘拐殺人事件、マクドナルド日本1号店開店	新3人娘の小柳ルミ子、南紗織、天地真理デビュー	
47	沖縄施政権返還、横井昭一グアム島から帰還、札幌オリンピック、浅間山荘事件	吉田拓郎などフォークソング人気	
48	金大中誘拐事件、江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞	山口百恵、桜田淳子デビュー、森昌子と花の中三トリオ人気	
49	小野田寛郎少尉ルパン島から帰還、田中角栄金脈問題、長嶋茂雄現役引退	井上陽水LP「氷の世界」がミリオンセラー	★大衆賞「二人でお酒を」(梓みちよ) ☆第25回「二人でお酒を」(梓みちよ)
50	沖縄海洋博開催	小猿佳ブーム、キャロル解散	
51	ロッキード事件、五つ子誕生	「およげ!たいやきくん」450万枚の大ヒット、	☆第27回「はしご酒」(藤圭子)、「酒場川」(ちあきなおみ)
52	日本赤軍日航機ハイジャック、王貞治756本塁打世界記録樹立	キャンディーズ引退宣言「普通の女の子に戻りたい」	
53	第二次ワインブーム、成田空港開港、ディスコブーム	古賀政男世界、キャンディーズ解散	
54	東京サミット、インベーダーゲーム流行	「夢追い酒」(渥美二郎)、「おもいで酒」(小林幸子)	★最優秀歌唱賞「おもいで酒」(小林幸子) ☆第30回「夢追い酒」(渥美二郎)、「おもいで酒」(小林幸子) ☆第31回「鶴という名の酒場」(石川さゆり)、「夫婦酒」(村田英雄)
55	ジョンレノン射殺、漫オブーム	山口百恵引退、越路吹雪死去	☆第32回「望郷酒場」(千昌夫)、「ふたり酒」(川中美幸) ★大賞「北酒場」(細川たかし) ☆第33回「北酒場」(細川たかし)、「おもいで酒」(小林幸子)
56	第三次ワインブーム、ルビーの指輪(レコード大賞)大ヒット	ピンクレディ解散	
57	ホテルニュージャパン火災、日航機羽田沖で逆噴射	「北酒場」(細川たかし)、カラオケブーム、ヘッドホンステレオ普及	
58	トロピカルカクテルブーム、フィリピン・アキノ大統領暗殺、東京ディズニーランド開園	ミリオンセラーは「さざんかの宿」ただ1曲のみ	☆第34回「酒とふたりづれ」(新沼謙治)
59	吟醸酒ブーム、グリコ事件、投資ジャーナル事件、ロス疑惑	「ワインレッドの心」(安全地帯)、マイケル・ジャクソン旋風、都はるみ引退	★金賞「ワインレッドの心」(安全地帯) ☆第35回「盛り場おんな酒」(大川栄策)
60	有毒剤混入ワイン問題化、日航ジャンボ機墜落、阪神優勝、つくば万博開催	アフリカ救済の「We Are The World」ヒット	
61	チェルノブイリ原発事故、ポティコン流行	レコードからCDへ	★歌唱賞「北の酒場」(北島三郎)、金賞「浪花盆」(五木ひろし)
62	第四次ワインブーム(ボジョレ・ヌーボー人気)、国鉄分割民営化	マドンナ、マイケル・ジャクソン旋風	
63	東京ドーム完成、ソウルオリンピック	「乾杯」(長瀬剛)、オペラブーム、ミック・ジャガー来日	★金賞「酔いどれ酒」(坂本冬美)、「乾杯」(長瀬剛)、新人賞「雨酒場」(香西かおり) ☆第39回「祝い酒」(坂本冬美)、「酒よ」(吉幾三)
平成元	天皇崩御、中国天安門事件、ベルリンの壁崩壊	美空ひばり死去	★金賞「酔いどれ酒」(桂銀淑)
2	秋山豊寛日本初の宇宙飛行、バブル経済崩壊	ユーミン現象、ローリングストーンズ来日	☆第41回「ぐい呑み酒」(坂本冬美)
3	湾岸戦争、雲仙普賢岳噴火	モーツァルト没後200年	★美空ひばり賞「雨夜酒」(藤あや子)、優秀賞「みあわせ酒」(中村美津子) ☆第42回「酒場」(冠二郎)
4	日本酒の等級制度廃止、イタリア産ワインから農薬検出、佐川急便事件、バルセロナオリンピック	アナログレコード複製盤人気	★編曲賞「こころ酒」(藤あや子) ☆第43回「こころ酒」(藤あや子)
5	地ビール製造容認、皇太子殿下ご成婚、Jリーグ発足	MDの普及、作曲家服部良一、猪俣公章死去	☆第44回「酒さずな」(天童よしみ)、「恋の酒」(細川たかし)、「酒よ」(吉幾三)
6	低価格輸入ビール・ワイン人気、北朝鮮・金日成死去、大江健三郎ノーベル文学賞受賞		★優秀賞「めおと酒」(長山洋子) ☆第45回「ひとり酒」(伍代夏子)、「雨の屋台酒」(小林幸子) ☆第46回「酒尽」(五木ひろし)
7	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件		☆第47回「エレジー～哀酒歌～」(吉幾三)、「女の酒場」(五木ひろし)
8	焼酎の税率引き上げ、薬害エイズ問題、O-157食中毒、アトランタオリンピック	小室哲哉プロデュースによるヒット目立つ	☆第48回「酒場のろくでなし」(山川豊)
9	第五次ワインブーム、消費税5%導入		☆第49回「酒ひとり」(五木ひろし)
10	和歌山砒素カレー事件、W杯初出場		☆第50回「冬の酒」(吉幾三)、「河内酒」(中村美津子)、「やんちゃ酒」(小林幸子)
11	ファービー、アイボ人気、桶川ストーカー事件	マキシシングル(12cm)アルバム普及	
12	シドニーオリンピック、新潟少女監禁事件、佐賀バスジャック事件、世田谷一家殺人	サザンオールスターズ人気、モーニング娘旋風	☆第51回「みれん酒」(石原詢子)
13	雅子さま女児出産、池田小乱入事件、	浜崎あゆみ人気高まる	☆第52回「酒と泪と男と女」(堀内孝雄)
14	焼酎ブーム、北朝鮮拉致被害者帰国、日韓共催W杯	浜崎あゆみ2年連続レコード大賞受賞	
15	邦人外交官イラクで殺害、自衛隊イラク派遣		
16	立呑み屋ブーム、新潟中越地震、プロ野球初ストライキ、鳥インフルエンザ		
17	カップ酒ブーム、小泉自民党大勝、JR西日本尼崎脱線事故、耐震強度偽装事件		☆第53回「北酒場」(細川たかし)



かつていたものの、研究者に理詰めで言い切られると、ただちに正座に座り直し、「はあ、勉強させていただけました」と頭を垂れてしまふ。おでこには、きつちり畳のあとがつくほどに深く、長く。

つまり酒と歌ってやはり、密接な関係にあるんだ。ただ、酒造りに関する仕事唄っていうのは、ワインやウイスキーなどには存在しないという。日本酒ならではの文化だ。

ここでひとつ酒造りの唄をご紹介しよう。日本酒といえば新潟県。「越路町酒造り唄保存会」と、新潟県教育委員会が発行した『越後の杜氏と酒男』から参照してみる。

ここで紹介するのは、酒造り唄の中でも、本格的な仕込みの前の準備に、ササラという特別なブラシで麴を造るへぎ(麴蓋)を洗うときに唄われた「流し唄」というもの。

一、越後出る時 涙が出たが

今じゃ越後の風も嫌(いや)

一、花の三月 泣き別れても

菊の九月に また逢える

一、越後出る時 禪(ふんどし)忘れ

長の道中を ぶらぶらと

一、酒屋商売 大名の暮らし

前にろく尺 立てて飲む

一、蔵じゃ親方 お頭よりも

わしが好いたは 釜屋さん

一、酒屋さんなら 来ないでくれ

一人娘の 気をそらす

一、今朝の流しは 二番か船槽(せんど)

仕舞い流しは釜屋さん

一、流し出た時 鬼かと思うてた

抱いて寝てみりゃ猫のようだ

一、蔵で可愛いのは 麴屋さんで

炊いたご飯に 花咲かす

一、入れておくれよ かゆくてならぬ

私一人は 蚊帳(かや)の外

一、雨の降る日と 日の暮れ方に

思い出します かかあのこと

一、猫にマタタビ 泣く子にお乳

可愛いあの娘に 何をやる

他にも「桶洗い唄」「米洗い唄」「数番唄」などがあるらしい。

冬の辛い仕事だからこそ、自らを奮い立たせるためにこうした哀愁に満ちた唄を口ずさんでいたんだろうな。

あれっ、ちよつと待って。辛い仕事といえば、筆者のいるフリーライターの業界(そもそも業界として成立しているかどうかもはなはだ疑問だが)は、その最たるものだ。

こうなったら、先人の知恵を借りるまでもなく、つたない経験をもとに自分で作っちゃえ。

題して「フリーライター悲哀唄」——。聴いて下さい。心に染みます、泣かせます。

一、せつせと取材に、にしひがし

経費は自腹で、元とれぬ

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

二、かわいいあの娘と酒を飲みゃあ

貧乏ライターと見下され

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

三、いつになったら原稿上がる

怖いボスから督促コール

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

四、ケツに火が点きや書きまくる

悲しき商売、職業病

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

五、悪文、駄作と言っなけれ

それでも愛すあの娘と自文

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

六、いつか夢見る大作家

意気込みだけは、超一流

〆はよ書け、ハイハイ

チヨイナ、チヨイナ

(作詞・筆者/作曲・なし、JASRAQ未承認)

たとえば、玉置宏が出てきて、「…世に出す名文胸に抱き、今宵も埋めます、原稿用紙。唄は流れるあなたの胸にいく、走るペン先に思いを込めて」なんて名調子で紹介されたとしても、辛さのみが伝わってくるだけで、まさに「酒無情」(宮路おさむ、作詞)／たきのえいじ・作曲／浜圭介)だなあ。